

循環器科

■齋藤 滋 副院長, 循環器科部長

日本心血管インターベンション治療学会専門医認定医制度指導医・専門医・認定医,
日本心臓病学会・上級臨床医 (FJCC),
日本循環器学会認定循環器専門医,
日本内科学会認定内科医,
FACC (米国心臓病学会正規会員)
FSCAI (米国冠動脈造影治療学会正規会員),
FAPSIC (アジア太平洋心血管インターベンション学会正規会員),
日本心臓リハビリテーション学会,
臨床修練指導医認定医,
循環器病学

■赤坂 武 循環器科部長

Sanford-Burnham Medical Research Institute 客員研究員, 日本循環器学会, アメリカ遺伝学会,
ニューヨーク科学アカデミー

■高橋 佐枝子 循環器科部長

米国心臓病学会正規会員(FACC),
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
日本心血管インターベンション治療学会認定医,
臨床研修指導医,
日本心臓病学会, 日本不整脈心電学会,
日本心臓リハビリテーション学会

■松実 純也 循環器科部長

日本フットケア学会評議員,
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会総合内科専門医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医,
植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療
研修証取得,
Fellow of Asian Pacific Society of Interventional

Cardiology (FAPSIC)/日本心臓病学会

■田中 穰 循環器科医長

日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会総合内科専門医・指導医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医/
関東甲信越支部運営委員,
日本高血圧学会高血圧専門医, 米国内科学会上級
会員(FACP),
日本周術期経食道心エコー委員会認定医,
医学博士

■村上 正人 循環器科医長

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医,
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医,
植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療
研修証取得, 臨床研修指導医, 医学博士

■末永 英隆 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
植込み型除細動器研修証取得,
ペースングによる心不全治療研修証取得

■杉立 和也 循環器科医長

日本心血管インターベンション治療学会専門医,
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療
研修証取得, 日本心臓病学会,
日本不整脈心電学会

■水野 真吾 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医

日本周術期経食道心エコー委員会認定医、
臨床研修指導医、日本不整脈心電学会、
日本心臓リハビリテーション学会

■山中 太 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
心臓リハビリテーション指導士、
日本心血管インターベンション治療学会専門医

■和田 匡史 循環器科医員

不整脈専門医、日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、
植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療
研修証取得、医学博士

■古橋 杏輔 循環器科医員

日本内科学会内科認定医、
日本循環器学会循環器専門医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、

■宍戸 晃基 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、
植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療
研修証取得、臨床研修指導医、
日本心臓病学会、日本不整脈心電学会

■飛田 一樹 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、
日本周術期経食道心エコー委員会認定医、
日本不整脈心電学会、日本心臓病学会、
日本小児循環器学会、日本成人先天性心疾患学会

■森山 典晃 循環器科医員

日本内科学会認定医、

日本心血管インターベンション治療学会認定医、
日本循環器学会、日本心臓病学会、
日本救急医学会

■落合 智紀 循環器科医員

日本内科学会内科認定医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、
日本循環器学会

■倉田 征昭 循環器科医員

日本内科学会、日本循環器学会

■高田 琢磨 循環器科医員

日本内科学会内科認定医、日本循環器学会、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、
日本不整脈心電学会

2014年 循環器内科展望

齋藤滋が当院の第一号職員として赴任したのは、
1988年10月1日に開催された湘南鎌倉総合病院設立
準備委員会当日でした。この会より一ヶ月を経て、
当院は11月1日に開院しました。このように文字通り
ゼロからスタートした循環器内科ですが、私たちは、
毎年365日、毎日24時間体制で循環器疾患の救急医療
に最高の技術と設備を持って対応しながら通常の循
環器診療をも地道に行っていました。さらに、この
ような日常循環器内科診療の中から世界に向けて医
療を発展させるべく医学論文を発信することをモッ
トーに邁進してきました。このように最初1人で始ま
った当科ですが、現在では湘南厚木病院、東京西徳洲
会病院、札幌東徳洲会病院、湘南藤沢徳洲会病院を
含め広範な地域における循環器診療および臨床研究
に日夜奮闘しております。

2010年に移転新築となりました新病院では、心臓
センターとして外来・病棟・検査・治療が1つのフロ
アに機能的にまとめられた効率的な診療・研究そ
して研修体制が確立されています。湘南鎌倉総合病

院循環器内科は、冠動脈インターベンションの世界では既に世界中の誰しもうかが知る病院となっていますが、これに加えて、日本国内でも先駆けて2012年より治験施設として開始した経カテーテル的大動脈弁植え込み術(TAVI)により、外科的治療が困難な重症大動脈弁狭窄症患者さんに対しても有効な治療法を提供しています。不整脈治療部門においては年間500例を超える患者さんに対してカテーテル・アブレーションを行い、不整脈で苦しむ患者さんの役に立っております。これらの積極的活動を通じて今後とも世界をリードする臨床研究を行い、これにより世界の医学をリードし、全世界の循環器疾患に悩む患者さんを助けると共に、次世代の若い医師を育てることにより更に多くの患者さんの役に立ちたいと思います。

診療実績

年間入院患者数	4,462名
平均入院日数	3.7日
冠動脈造影検査数	2,897件
冠動脈造影CT件数	1,180件
PCI総件数	909件
PTA件数	242件
ペースメーカー植え込み件数	146件
カテーテルアブレーション件数	458件

業績

齋藤 滋

(1) 論文発表

1. Imori Y, Murakami M, Tanaka M, Saito S. Anomalous origin of the right coronary artery with concomitant myxomatous mitral valve disease: a rare coexistence. *BMJ Case Rep.* 2014 Oct 23;2014

2. Saito S, Valdes-Chavarri M, Richardt G, Moreno R, Iniguez Romo A, Barbato E, Carrie D, Ando K, Merkely B, Kornowski R, Eltchaninoff H, James S, Wijns W; CENTURY II Investigators. A randomized, prospective, intercontinental evaluation of a bioresorbable polymer sirolimus-eluting coronary stent system: the CENTURY II (Clinical Evaluation of New Terumo Drug-Eluting Coronary Stent System in the Treatment of Patients with Coronary Artery Disease) trial. *Eur Heart J.* 2014 Aug 7;35(30):2021-31.
3. Saito S, Hagiwara N, Seki A, Igarashi K, Muramatsu T, Yajima J, Yokoi H, Nakamura M, Fujii K, Isshiki T, Stone GW, Teirstein PS, Meredith IT, Allocco DJ, Dawkins KD. Japanese and non-Japanese patient outcomes in the PLATINUM randomized trial comparing the PROMUS Element and XIENCE V everolimus-eluting stents. *J Cardiol.* 2014 Aug;64(2):105-12.
4. Takeshita S, Asano H, Hata T, Hibi K, Ikari Y, Kan Y, Katsuki T, Kawasaki T, Masutani M, Matsumura T, Premchand RK, Rao SP, Suzuki T, Takahashi A, Takeda R, Tanaka S, Yamazaki S, Yin WH, Yoshimachi F, Saito S; NAUSICA Trial Investigators. Comparison of frequency of radial artery occlusion after 4Fr versus 6Fr transradial coronary intervention (from the Novel Angioplasty USIng Coronary Accessor Trial). *Am J Cardiol.* 2014 Jun 15;113(12):1986-9.
5. Imori Y, Akasaka T, Ochiai T, Oyama K, Tobita K, Shishido K, Nomura Y, Yamanaka F, Sugitatsu K, Okamura N, Mizuno S, Arima K, Suenaga H, Murakami M, Tanaka Y, Matsumi J, Takahashi S, Tanaka S, Takeshita S, Saito S. Co-existence of carotid artery disease, renal artery stenosis, and lower extremity

peripheral arterial disease in patients with coronary artery disease. Am J Cardiol. 2014 Jan 1;113(1):30-5.

6. Saito S, Nakamura M. PRASFIT-ACS : important evidence against a "one-guideline-fits-all-races" approach to antiplatelet therapy. Circ J. 2014;78(10):2564.
7. Saito S, Isshiki T, Kimura T, Ogawa H, Yokoi H, Nanto S, Takayama M, Kitagawa K, Nishikawa M, Miyazaki S, Nakamura M. Efficacy and safety of adjusted-dose prasugrel compared with clopidogrel in Japanese patients with acute coronary syndrome: the PRASFIT-ACS study. Circ J. 2014;78(7):1684-92.
8. Moriyama N, Ishihara M, Noguchi T, et al. Admission hyperglycemia is an independent predictor of acute kidney injury in patients with acute myocardial infarction. Circ J. 2014;78(6):1475-80

(2) 学会発表とその他講演など

日本国内外で講演，座長，オペレータ多数にて省略

高橋 佐枝子

(1) 学会発表

1. Gender differences in Mortality after ST-Segment Elevation Acute Myocardial Infarction In Japanese Patients. ACC2014 Washington DC March 29-31, 2014
JCS 2014 Tokyo March 21-23, 2014
2. パネルディスカッション21 「Failed症例から学ぶCTO-PCIのTips and Tricks」 Real-time CTCA-guided PCI for CTO 2014 CVIT, Nagoya, July 24-26
3. コントロバーシー2 「Radial vs Femoral for STEMI」 Long-Term Outcomes of TEMPURA Trial 2014 CVIT, Nagoya, July 24-26
4. 女性インターベンシヨナリストに聞く (JWINC) How to Build a Career without Losing Work-Life Balance

2014 CVIT Nagoya July 24-26

5. Gender Differences in Mortality after Acute Myocardial Infarction 第62回日本心臓病学会学術集会, Sendai, Sep 26-28 2014

(2) 講演その他

1. Commentator 2014 SCJ Annual Meeting, Shinagawa, April 4-6 2014
2. Chair 「ライブで英語を喋ってみよう～プロの通訳に学ぶ～」 2014 J-WINC@CCT, Kobe, Nov, 2014

田中 穰

(1) 講演その他

1. Discussant, international faculty, Cardiovascular Research Technologies 2014, Washington DC, USA

山中 太

(1) 学会発表

1. Impact of Septal Bulge on Outcome after Trans-catheter Implantation of the Edwards Sapien XT in Patients with Severe Aortic Stenosis. (The 23rd Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics: July 25, 2014: Nagoya, Japan)
 2. Balloon-Expandable Trans-catheter Aortic valve Implantation in Japanese Patients with Severe Aortic Valve Stenosis. (The 23rd Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics: July 26, 2014: Nagoya, Japan)
 3. Initial Results of Trans-catheter Aortic Valve Implantation in Japanese Patients with Severe Aortic Valve Stenosis. (The 62rd Annual Scientific Session of the Japanese College of Cardiology, Sendai, Japan, September 26, 2014)
 4. Trans-catheter Aortic Valve Implantation in Japanese Patients with Severe Aortic Valve Stenosis. (The 34rd Annual Meeting the Japan Society for Clinical Anesthesia, Tokyo, Japan, November 1, 2014)
-

宍戸 晃基

(1) 学会発表

1. The Relationship of Endothelial Shear Stress after Stent Implantation with Subsequent In-Stent Neointimal Hyperplasia and Clinical Outcomes Due to In-Stent Restenosis 2014 ESC August 30 - September 3; Barcelona
2. The Relationship of Endothelial Shear Stress after Stent Implantation with In-Stent Neointimal Hyperplasia and Clinical Outcomes in Humans 2014 AHA November 15-19; Chicago

飛田 一樹

(1) 学会発表

1. Clinical Impact of the Association between Stroke and β -blocker Following Acute Myocardial Infarction 第78回日本循環器学会学術集会(2014/3/21~3/23)
 2. 高齢の急性心筋梗塞症例におけるACE阻害剤又はARBの使用が与える予後改善効果 第62回日本心臓病学会学術集会(2014/9/26~9/28)
 3. 感染性心内膜炎に続発したANCA関連血管炎により急性腎不全に至った一症例 第62回日本心臓病学会学術集会(2014/9/26~9/28)
-